



Creator
葛西 薫 アートディレクター

興奮

印刷物には、まずは伝えたいものがある。
その裏側にしっかりテクニックがあるからこそ、ちゃんと伝えることもできるように思う。
この作品で伝えたいのは、僕の思い出である。エキサイトしたあの瞬間は皆さんに伝わるだろうか。

Printing Director
田中 一也 Kazuya Tanaka

大陸のエネルギーに魅せられて

テーマを聞いて、「日本語に直したから興奮だな」と思いました。印刷物に対する興奮を期待されているのですが、僕の立場としては印刷で驚かすというよりは、表現されている内容で興奮を伝えるようなものをつくりたいと考えました。

最初は誰もが知っている人の顔写真をスクリーンなどで加工してみようかと実験し始めました。でも、どこかでもと何かあるのではないかという疑問が拭えず、心を静めて考えてみたいと時間をもらうことにしたんです。そうして、自分が何に興奮するかともう一度探っているうちに、「そういえば!」と思いついたことがありました。

10年近く前、何度もロケで中国に行っていた時のことです。車であちこち動き回っていると、街道筋で限界を超えるほどの荷物を積んで行き交うトラックやリヤカーに出会いました。どこからどこへ運ぶのかわからないけれど、一気に運ぼうという強引なほどの活力は、まさに「営々として」という言葉がふさわしい。働くこと、生きることに対する欲求が伝わってきて、その大陸的なエネルギーがとにかく素晴らしく思えて、僕は興奮しながら見ていました。「そうだ、自分が興奮したあの思い出を伝えよう」と決めました。

現実を夢の情景へと変換して

素材は、いつも現地でお世話になっていたプロデューサーの李釗さんに撮ってもらった35mmの小さなスナップ写真です。ざっくりとい

いかげんに縛られた鉄線、最小限のエネルギーで最大量を運ぼうという欲望、執着、生命力。ガソリンをエネルギーに変換して荒々しくタイヤが回って前進するトラックの、泥臭いまでに生々しいイメージをどうにか伝えられないかと思いました。

あえて画面を捻ったのは、夢の中の情景のように生々しい現実を歪ませて、記憶の写真にしたかったからです。現実の写真がちよっと非現実に見えてくるような、そんなポスターにしようと思いました。いつも思うのは、過去も未来も距離感と同じだということです。これは思い出でもあるけれど、自分にとっては未来でもある。時代が遠くなればなるほど未来的になるような気もするし、なるべく遠くに行きたいという思いもあるのかもしれない。

印刷の原点に興奮しつつ

この題材を選んだ時から、美しい印刷よりも臭いを感じるような印刷に、高精細度ではなくローテクニック、言わば8Kの逆方向の精度に行きたいなという、ちょっと反抗的な気持ちがありました。

印刷機はシリンダーに製版した

刷版を巻き付けてガチャン、ガチャンと印刷しますよね。機械は使うけれども、どこか最後の手作業のようなところが印刷にはあって、そこがまた機械好きの僕にはたまらないところでした。

ですから、印刷の手法もできるだけ原始的なほうがいい。写真なら網点が必要ないし、カラーだったら藍(C)、赤(M)、黄(Y)、墨(K)の4色がいい。そこから発展して、少し大きな網点で刷りたいとか、インキに混ぜものをしたらどうなるかなど、想像を膨らませながら実験していきました。時代はどんどん高精細に向かっていくけれど、むしろ印刷の元来の姿に近づけたい。

仕上がった作品を見た時は興奮しました。当時の興奮をわかりやすく思い出せる気がしました。見る人のためにつくっていたつもりだったけれど、本当は自分のためにつくっていたのだと思えるほど嬉しくて。興奮というのはこういうことなのかなと再発見できたように思います。

これは僕の勝手な興奮の思い出ですが、ご覧になった方にも自身の興奮や喜びとは何なのか思い出してもらえたら嬉しいです。



1 極端な拡大写真のより豊かな表現を探る

トライアル意図 • 今回の作品は35mmネガフィルムの写真原稿をB1サイズ5連に引き伸ばして制作する(約13,751%に拡大)。画像を極端に拡大すると写真が荒れて不鮮明になり、絵柄が弱くなる。それを逆手にとり、高解像度を必要としない粗線にすることで、より豊かな写真表現の強さにつながる方法を探った。実験では、制作過程で小型版をつくって目伸ばしして完成させる80年代の手法も参考にした。

トライアル内容 **1-1 35mmフィルムを約100倍に引き伸ばす**
拡大方法の検証
3つの方法で、最適見え方を確認する。

1-2 粗線の味わいを検証する
線数の検証
①-④: 全版同線数で印刷
⑤-⑧: CMYK各版を異なる線数で印刷

2 インキと用紙による印象を探る

• 製版設計が確定したので、次に印刷の要素を検討したインキと用紙を工夫することになった。葛西さんの記憶に残る空気感やイメージをより鮮やかに伝えられる組み合わせを探った。キーワードとして、葛西さんから“Dirty”“Oily”などが挙げられた。

2-1 “Dirty”なインキ設計
CMYKのプロセス4色に様々なインキを混色し、色のトーンを確認する。

2-2 “Oily”な質感表現
モノトーンでマット・グロス両方の質感を混在させ、質感表現により適した用紙を検討する。

結果



① 指定サイズへ引き伸ばして一般的な175線で印刷



② 指定サイズへ引き伸ばして疑似粗線で印刷



③ B3程度に引き伸ばし、175線で印刷したものをスキャン、指定サイズへ引き伸ばして175線で印刷



① 全版40線



② 全版30線



③ 全版20線



④ 全版10線



⑤ C版:10線 M版:20線
Y版:30線 K版:40線



⑥ C版:20線 M版:30線
Y版:40線 K版:10線



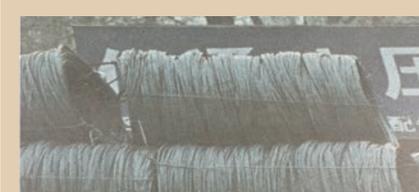
⑦ C版:30線 M版:40線
Y版:10線 K版:20線



⑧ C版:40線 M版:10線
Y版:20線 K版:30線



① CMYK各色に銀を混入



② CMYK各色に銀・赤金・青金・銀を混入



③ CMYK各色にスミを混入



① OKアドニスラフ70



② キャピタルラップ



③ オーロラコート



④ b7トラネクスト

※掲載の画像はモノトーン印刷による比較。
(C・M版: マットスミ、Y・K版: グロススミ)

結果を受けて • ①が最もノーマルな方法だが、ディテールがぼけて原稿が小さいことが露呈する。一方、②のようにコンピュータ上で加工するとわざとらしい印象になる。引き伸ばしと拡大を2段階で行う③が最も自然な印象になった。

• 線数が細かい方がリアル感が増し、粗い方が印象は強まる。版毎に線数を変えると、ドットが大きい方が色味の印象が強くなる。全組み合わせを比較検証した結果、同線数では規則的なパターンが発生し、異なる線数では網点の密度バランスで見え方が大きく変わることが判明した。

• ①は銀で色味が抑えられ、冷たくかすんだ印象に、②は金色が強く発色して強調されたかたちになった。③は色調が程よく抑えられ、望むような冬枯れの季節感と淀んだ空気、寂寥感漂う重厚感がバランスよい仕上がりになった。

• ①は新聞の報道写真のような質感とリアル感が、②は紙地のグレーがかかった色味が全体を沈んだ色調に、③は紙地の艶が目立ってインキの質感が弱まった。④は色の濃さ・強さが発揮されて写真自体の存在感が際立った。いずれも用紙の性質を活かしながら原稿の持つ時代感や空気感が表現された。



1: 特色スミ



2: 特色シアン (スミ混入)



3: 特色マゼンタ (スミ混入)



4: 特色イエロー (スミ混入)



5: スミ



6: グロスニス



興奮

GRAPHIC TRIAL 2019 EXCITING

"Graphic Trial" is an experiment in which artists and printing directors at Toppan explore the relationship between graphic design and printing techniques in order to develop new forms of expression.

print method
offset printing / 4 colors (exclude text)

ink's composition
Cyan's plate cyan:black=8:2
Magenta's plate magenta:black=8:2
Yellow's plate yellow:black=8:2
Black's plate cyan:magenta:yellow=1:1:1

ink manufacturer
Toyo Ink Co., Ltd.

screen
AM screening
screen angle
K: 45°, G: 15°, M: 75°, Y: 30°

scanner reproduction ratio
Dram Scanner 13.751.588%

print pressure printing pressure
4-stroke process 8.11mm

flushed size number of revolutions
Y2000 11,000rpm

press size photo mask
1,000 x 720mm Negative Film 35mm

printing's concept
K, C, M, Y

paper
OK Adニスラフ 70 1,081 x 720 / 50g/m² short grain

printing direction
Kazuya Tanaka Shotaro Nakajima

designer
Yayoi Hirose Mitsuo Tanaka

date of first proof
Mar. 25 Feb 2019

print shop
Hitomi Nakamura

produce and print
Toppan Printing Co., Ltd.

art direction and design
Kaoru Kasai

photograph
Li Zhao

(about 2005 in China)



1: 特色スミ



2: 特色シアン (スミ混入)



3: 特色マゼンタ (スミ混入)



4: 特色イエロー (スミ混入)



- 1 印刷方式【色数】——H-UVオフセット印刷【6】
 スクリーン——AM175線(C版:20線/M版:30線/Y版:40線/K版:15線相当)
 用紙——OKアドニスラフ70 53.5kg

- 2 印刷方式【色数】——H-UVオフセット印刷【4】
 スクリーン——AM175線(C版:20線/M版:30線/Y版:40線/K版:15線相当)
 用紙——OKアドニスラフ70 53.5kg



1: 特色スミ



2: 特色シアン
(スミ混入)



3: 特色マゼンタ
(スミ混入)



4: 特色イエロー
(スミ混入)



- 3 印刷方式【色数】——H-UVオフセット印刷【4】
 スクリーン——AM175線(C版:20線/M版:30線/Y版:40線/K版:15線相当)
 用紙——OKアドニスラフ70 53.5kg



1: 特色スミ



2: 特色シアン
(スミ混入)



3: 特色マゼンタ
(スミ混入)



4: 特色イエロー
(スミ混入)



- 4 印刷方式【色数】——H-UVオフセット印刷【4】
 スクリーン——AM175線(C版:20線/M版:30線/Y版:40線/K版:15線相当)
 用紙——OKアドニスラフ70 53.5kg



1: 特色スミ



2: 特色シアン
(スミ混入)



3: 特色マゼンダ
(スミ混入)



4: 特色イエロー
(スミ混入)



- 5 印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷[4]
 スクリーン——AM175線(C版:20線/M版:30線/Y版:40線/K版:15線相当)
 用紙——OKアドニスラフ70 53.5kg

Production notes

作品づくりのポイント

製版はあくまで標準の4色分解、インキは標準の4色を基本に、できるだけ普通の枠組みを前提にという葛西さんの意向を受け、線数とインキの組み合わせでイメージを詰めていった。最終的に、ポスターのインキは以下の3種類を検討した上で決定した。

実験したインキセット①

発色のコントロール

通常のプロセス4色と非塗工紙でオリジナル原稿に近い発色を得るには、インキが沈むドライダウン対策や、紙の凹凸を抑えるための高めの印圧設定などの微調整が必要だ。そこで、黄色味が少なく透明度の高いパールメジウムを混入して彩度の高いインキセットを試した。



① 通常のCMYK(一般的な塗工紙)



② パールメジウム入りCMYK
(一般的な塗工紙)



③ パールメジウム入りCMYK
(非塗工紙/アドニスラフ)

実験したインキセット②

CMYK4版でつくるモノトーン

豊かなモノクロの表現を目指し、2つの方向から手法を探った。

①CMYK4版の活用

CMYKの4版それぞれをスミで刷るとシャドウ部は潰れ気味になる。そこでK版をシメ版(骨版)、CMY版を主版、補色版に見立てて本来の色をイメージしながらインキを希釈して調整した。

②2種のニスで質感をプラス

C版はグロスニスで、M・Y版はマットニスで希釈することで、光沢の変化による質感表現を試みた。



4版全て100%スミ



ニスで希釈したスミ4版

通常のモノトーンはグレースケールに変換して制作する。カラー版をモノトーンで印刷すると、絵柄によっては鉛筆デッサンのようにカラーを感じさせる面白い表現になるものもある。



全体像

実験したインキセット③

モノトーンのようなカラー表現

葛西氏のイメージに合わせ、CMYにはスミを混色し、彩度を抑えた色味を探った。さらに、K版用のインキに通常のスミを使うと艶も発色も強すぎると判断し、CMY3色を混色したオリジナルの黒インキを用いることにした。



スミ35%+
CMY各65%



スミ30%+
CMY各70%



スミ20%+
CMY各80%

文字を際立たせる

文字はグロッキーにして別のレイヤーに乗っているような表現にしたいとのリクエストに対し、写真を表現するCMYK4版のK版に文字を入れるだけでなく、上から通常のスミとグロスニスを刷り重ねて強さを出した。

